

## “力強い信念”

主の祈りをしましょう。

天にいますわれらの父よ、御名があがめられますように。

私に御国がきますように。

私のみこころが天に行われるとおおり、地にも行われますように。

わたしの日ごとの食物を、きょうもお与えください。

わたしの負債をもおゆるしてください、でも、わたしに負債のある者を許すことができなくてもわかってください。

わたしは少しの試みなら、実は構いません。なぜなら、誘惑を楽しみたいからです。

でも、とにかく、私を悪しき者からお救いください。

アーメン

皆さん、まさか、このような祈りに『アーメン』とは言わないでしょう。あるいは、言ったとしても、私に気を遣ってくれただけで、本心からそう祈っていないことを願います。

今日（こんにち）、多くのクリスチャンが、本当の主の祈りの代わりに、先ほどのような祈りを祈っているのではないかと私は心配しています。そんなことを心配するのは、時々、私自身が、主の祈りの代わりに、このように祈ってしまうことがあるからではないかと思えます。私は、そのような祈りの言葉を実際に口にすることはありません。しかし、自分の心が何に傾いているのかや、生き方によって、時々、主の御心よりも自分の御心がなされることを望んでしまうのです。人を赦さず、恨む方が楽なのです。退屈するくらいなら、ときどきちょっとした誘惑を楽しみたいと思ってしまういませんか。

しかし、このような考えは明らかに正しいことではありません。このような考えは、私たちキリストを信じる人間が、求められている生き方ではありません。私たちは、キリストに似るように変えられなければならないのに、この間違った祈りのように心を傾けるべきではありません。私たちが救われたのは、主の祈りが叶うためだけではありません。洗礼者ヨハネの言葉を借りるとするなら、私たちは、「悔い改めにふさわしい実を結ぶ」ために救われたのです。

使徒パウロはテモテに次のような警告と励ましを書き送りました。

では今から、私たちに警告をもたらしてくれる、テモテへの手紙第2章の最初の5節と、励ましと呼びかけをもたらしてくれる、テモテへの手紙第4章を見ていきましょう。

パウロは3章の冒頭で「しかし、よく承知しておきなさい」と述べています。彼は「注目しなさい！」「よく聞きなさい！」「ほら！聞いて！」と言っているのです。そして、「終わりの日には困難な時代がやって来る」と警告しています。これから読む聖書箇所には、つい最近書かれたばかりではないかと思うほど、人間の一般的な19の性格上の欠点や罪のことが現代風に表現されています。テモテへの手紙第2章 3章1-5節をお読みします。

- 1 終わりの日には困難な時代がやって来ることをよく承知しておきなさい。
- 2 そのときに人々は、自分を愛する者、金を愛する者、大言壮語する者、不遜な者、神をけがす者、両親に従わない者、感謝することを知らない者、汚れた者になり、
- 3 情け知らずの者、和解しない者、そしる者、節制のない者、粗暴な者、善を好まない者になり、

4 裏切る者、向こう見ずな者、慢心する者、神よりも快樂を愛する者になり、  
5 見えるところは敬虔であっても、その実を否定する者になるからです。こういう人々を避けなさい。(テモテへの手紙 第二 3章1-5節)

今日皆さんが家に帰ったら、ここに書かれていることをもう一度読んで黙想し、聖霊に聞いて自分に足りないところを示してもらい、そこから自分を振り返って考えるようにお勧めします。あなた自身を悔い改めへと導くこと、それこそが神からの賜物なのです。今日は、この聖書箇所に掲げられている最後の節だけに焦点を当てたいと思います。なぜなら、この最後の項目が一番、教会全体に焦点を当てているからです。

パウロは「見えるところは敬虔であっても、その実を否定する、すなわち神の力を否定する」ことを戒め(いましめ)ているのです。この言葉は、自分の身に当てはめてみると、ちょっと骨身に染みるように怖いのではないのでしょうか。

なぜなら、私たちは見えるところ、すなわち教会に行ったり、歌を歌ったり、祈りを捧げたり、聖餐式を行ったり、説教に熱心に耳を傾けたりという謙虚な行動を見せることはできても、実は、神の力を否定しているのではないのでしょうか？

神の力とは、私たちの人生が変化したときに最もよく表れるものです。聖霊が力を発揮し、私たちがその力を受け入れることができれば、罪の習慣を断ち切ることができ、私たちの人格は変わり、希望が生まれ、人生観が一変するのです。そして、私たちは主を畏れることを喜びと感じられるようになるのです。

ではここで、次のような質問リストを用いて、自分自身が変わり、罪の習慣を断ち切ることができているかどうかを、自問自答してみましょう。

- もし私が、キリストの存在と神の力を受け入れているのなら、なぜいまだに神を冒瀆するようなエンターテイメントを見ているのでしょうか？
- もし私が、キリストの存在と神の力を受け入れているのなら、なぜいまだにお金を追い求め、まるで自分のものであるかのように使っているのでしょうか？
- なぜまだ自分を自制することに難しさを感じているのでしょうか？
- なぜ、いまだにポルノを見ってしまうのでしょうか？
- なぜ私は、いまだに恨みを抱いているのでしょうか？
- なぜ私は、まだそんなに簡単に怒ってしまうのでしょうか？
- なぜ私は、まだ不安と闘っているのでしょうか？
- なぜ私は、いまだに神様に無関心なことが多いのでしょうか？

パウロは私たちに、キリストにある神の力が、神の栄光のために私たちの人生を変えることを喜んで受け入れなさいと呼びかけてくれているのです。

今ここで、神が私たちの人生を変えてくださることについて、一旦立ち止まって祈りましょう。形だけの祈りではなく、神が私たちの心の中に本当に働いてくださるようにとお願いしましょう。お祈りします。

「神様、私たちは神様の力を否定するような、いい加減な敬虔(けいけん)さは持ちたくありません。あなたに、私たちの罪の習慣を断ち切ってもらい、人生に新しいものをもたらしてもらい、信仰を貫く大胆さをもらい、生きるために新しい目的と計画を感じさせてもらいたいです。あなたともう一度恋に落ち、あなたを恐れ喜び、あなたのようになり、あなたと共にいることを楽しみ、

あなたに喜んでもらいたいのです。あなたの聖霊の臨濟と力で、私たちを新たに満たしてくださいませようお祈りします。アーメン。」

これまでお話してきたように、テモテへの手紙第二 3 章には、私たちが不道德な生活や力のない宗教を避けるようにという警告が書かれていました。そして、次の 4 章では、パウロがテモテを励まそうとします。では次に、パウロがどのようにテモテを励ましているのかを見てみましょう。テモテへの手紙第二 4 章 1 節には次のように書かれています。

#### テモテへの手紙 第二 4 章 1 節—

1 神の御前で、また、生きている人と死んだ人とをさばかれるキリスト・イエスの御前で、その現れとその御国を思って、私はおごそかに命じます。

ここでは、パウロは、気軽に話したり、提案をしているのではありません。人生を左右するような重大な言葉をテモテに伝えようとしているのです。パウロは律法用語を使って、「今すぐ注意なさい!」「よく聞きなさい!」「ほら、聞いて!」「これは本当に重要な事ですよ!」と言っているのです。そしてさらに、2-5 節で、パウロは次のようにテモテと私たちに警告を続けています。

2-5 節を、お読みします。

2 みことばを宣べ伝えなさい。時が良くても悪くてもしっかりとやりなさい。寛容を尽くし、絶えず教えながら、責め、戒め、また勧めなさい。

3 というのは、人々が健全な教えに耳を貸そうとせず、自分につごうの良いことを言ってもらうために、気ままな願いをもって、次々に教師たちを自分たちのために寄せ集め、

4 真理から耳をそむけ、空想話にそれて行くような時代になるからです。

5 しかし、あなたは、どのような場合にも慎み、困難に耐え、伝道者として働き、自分の務めを十分に果たしなさい。

パウロがここでテモテに与えている指示のいくつかは、テモテの才能と働きに特化したものだということがわかります。しかし私たちも、このパウロの言葉を自分の人生に直接当てはめてみる事ができます。今日はあまり時間がないので、この聖書箇所最後の節、5 節に焦点を当て、「どのような場合にも慎みなさい」という父親のようなパウロの言葉を、皆さんと考えてみたいと思います。

ここで、私のことを少しお話しさせてください。

私は、デフミニストリーインターナショナル・国際ろう者支援団体に仕事をしています。国際ろう者支援団体を以後、省略して DMI と呼びますが、私の DMI での仕事を通して、「どのような場合にも慎みなさい」と言う言葉に非常に共感することができます。実は、今日のこの説教を書いている一週間間に、DMI の現地の人々から次のような要望や緊急事態が発生し、対処に追われていました。その緊急事態や要望の内容とは、次のようなものでした。

- 伝道者が結婚式を挙げるので、支援のために 300 ドル欲しい
- 重要なキリスト教の会議に参加するための飛行機代として 280 ドル 欲しい
- 足の切断を避けるための手術に 1000 ドル 欲しい
- 毒をもらわれ病気になった治療に 180 ドル欲しい
- 全焼した家の建具（たてぐ）の交換に 1600 ドル欲しい
- 政府が指定する学校の教科書を購入するために 300 ドル欲しい

- 車の修理代に 4500 ドル欲しい
- 週 50 ドルの家賃補助、または伝道者の一人分の伝道費用の補助が欲しい

DMI が運営している教会や教室の増設のためや研修の充実のため、または、教師の給料を上げたり、ろう者のための神学校を作ることというような長年の要望に加え、個別の新しい要望も出てきます。しかし、このような要望をすべて満たす資金が DMI にはありません。そう考えると、私は、『どうしよう、』と圧倒されて頭が真っ白になります。

だから、「どのような場合にも慎みなさい」という冷静な神の声は、私にとって大いに意味を成してくれているのです。

そして皆さんも、私と同じように感じるのではないのでしょうか？

では次に、このテモテに対する励ましの最後の節にあたる、5 節の一番最後の「**自分の務めを十分に果たしなさい**」という言葉に注目したいと思います。この言葉は、少し味気なくて、堅苦しく聞こえるかもしれませんが、私たちの多くは、「私たちは何もなくていいのです。ただ救われたことを喜ばばいいのです！」というような励ましの言葉を聞きたいと思っているのではないのでしょうか。「自分の務めを十分に果たしなさい」という堅苦しい言葉よりも、むしろ、私たちは愛と喜びと平安に満たされており、恵みと憐れみを受けていることなどについて聞きたいと思っていることでしょう。特に今のような時代には、そのような励ましをもっと受けたいと皆さんは感じていると思います。

しかし、どんなに簡単なことでも、どんなに深い意味のあることでも、私たちは皆、何らかの形で奉仕するよう神に召されているのです。私たちは皆、奉仕するために召されているのです。そして、そこに深い充足感を見出すことができるのです。私たちは、奉仕の仕事をやり残してしまうと物足りない気持ちになりますが、宣教や奉仕の仕事を誠実に、そして実り豊かにやり遂げると、深い満足感に満たされ、豊かなやりがい生まれてきます。私たちは、「よくやった。善良で忠実な僕よ。」と言われることによって、他では感じることのできない幸せを感じます。私たちが奉仕活動の義務を果たすことは、祝福なのです。

今度は、私たちは、もう一度立ち止まって奉仕のために祈りたいと思います。

お祈りをしましょう。

「天の父よ、私たち一人一人を奉仕のために召してくださることを感謝します。あなたが私たちと共に、また、私たちを通して働き、喜んでくださることを感謝します。**奉仕をするために**、あなたの御霊によって私たちの信仰を強めてください。私たちが良い行いに励むことができるように、みことばによって励ましてください。私たちが奉仕の務めを果たすとき、喜びで満たしてください。そのために、私たちはあなたの揺るぎない愛に信頼し、あなたの救いを喜びます。アーメン」

奉仕の職務を遂行することは素晴らしいことなのです。

では今から、デフ・ミニストリーズ・インターナショナル/DMI がおこなった様々な奉仕活動や、成し遂げた素晴らしい宣教活動のいくつかを紹介し、「奉仕の努めを遂行する素晴らしさ」を皆さんに知っていただきたいと思います。

さてここで、前後しましたが、デフ・ミニストリーズ・インターナショナル/DMI をご存じない方のために説明させていただきます。私たち DMI は国際的に活動し、ろう者を支援する非利益団体です。世界中のろう者に福音を伝え、教育や雇用を提供する国際的なクリスチャンの団体という、ク

リスチャン・ミニストリーネットワークであり、私たち DMI は現在まで 40 年以上にわたって、奉仕活動を続けています。

今から、私が DMI で働くことになった背景を少しお話します。私が DMI を知ったのは、約 30 年前、創設者であるオーストラリア人のネヴィルという人物に出会ったことが発端となります。私は DMI の活動に大いに賛同し、ネヴィルさんの人柄も大好きだったので、DMI への支援を個人的に始めました。ネヴィルさんは、誠実で、才能があり、謙虚で、楽しく、少々、自虐的なユーモアを持つ、高潔なクリスチャン・ライフを送る、地に足のついたという表現が似合う人物でした。その後、私は DMI の子供たちを支援するスポンサーになり、私の家族もそれぞれスポンサーとなり、私の教会だった箕面国際教会も DMI を支援してくれるようになりました。そして後に、私は DMI の日本理事会に依頼され、約 6 年間、DMI 日本支部の理事を務めた後、2019 年に再び DMI のスタッフとして共に働くようにと依頼されたのです。このように、私と DMI の関係は長く、現在でも、とても良好な関係を保っています。

皆さんに DMI を紹介するにあたって、次のような数字を見てもらいたいと思います。

- \* DMI は、世界 21 カ国で活動しています。
- \* DMI は、合計 700 人の生徒が通う 10 校のろう学校を建設、設立、または多額の投資を行っています。
- \* DMI は、70 以上の雇用プロジェクトを実施しています。
- \* DMI は、現地で約 100 名のスタッフ・伝道者を雇用しています。
- \* DMI は、世界中でろう者のための教会を 180 ヶ所設立し、毎週 5000 人のろう者に宣教しています。

これらの数字を知ってもらった上で、次に、この 1 年間で、DMI が実際に行ったさまざまな活動をお伝えします。

- コンゴ民主共和国に中学校と事務所を建設しました。
- マラウイで災害支援を行い、トレーニングセンターと寮を再建しました。
- タンザニアで地域社会の雇用プロジェクトを展開しました。
- アフリカにろう者のための神学校を建設するための土地を購入しました。
- フィリピンに新しい教会堂を建設しました。
- 東ウガンダに仮設教会堂を建設しました。
- ウガンダ北部のリラ地域で新しい教室を建設しました。
- ウガンダで貿易商のインターンシップのための大規模なプログラムを支援しました。
- 中国でカフェの新規開業を支援しました。
- ケニアに中学校を建設しました。

これらの活動は単に経済的な基盤作りに見えるかもしれませんが、私たち DMI の活動や資金のほとんどは、ろう者に福音を伝え、新しく信者になった者に洗礼を授け、弟子訓練プログラムを実施し、新しいろう者の教会を建てるための宣教プログラムに、費やされてきました。

ではなぜ、私たち DMI はこのような活動をする必要があるのでしょうか？それは、なぜなら、発展途上国のろう者たちは、福音を聞くことに関して特に、世界で最も取り残されている人々だからなのです。地方政府には、健聴者を支援し教育するための資金さえないため、ろう者は、尚のこと、教育も受けられず、仕事にもつげず、コミュニティにも属することができません。また、あるろう

者たちは、愛情に満ちた家庭で育っても、多くのろう者が社会参加の機会も希望もなく、黙々と、孤独に、もどかしい生活を送っているのです。あるろう者たちは、生まれながらにして家族に捨てられ、呪いの汚名を着せられたまま成長し、物乞いや売春に手を染める者も少なくありません。多くのろう者は自分の名前さえ知らないのです。

パウロがテモテに書いたように、「務めを果たす」ことによって、DMIはそのすべてを変えようとしているのです。今では、ろう者は教育を受けています。彼らには有意義な仕事が与えられています。彼らは自立した生活を始めています。ろう者たちは新しいコミュニティに参加する事を楽しんでいます。そして何より、多くのろう者たちがイエスへの信仰を見出しているのです。DMIの活動の結果、ろう者たちの生活が大きく根本的に変えられたのです。今では、私たちDMIの働きが、素晴らしい実を結んでいるのです。

さて、DMIの基本的な活動や数字については、今までご紹介してきましたが、これからは「人」についてお話しします。私は、DMIの活動を通して人々の人生が変わっていくことを目の当たりに見て、圧倒され、私たちDMIの奉仕活動を受けた多くの人々に興味を持ち、インタビューをするようになりました。この過去3年間で、私は50人近いろう者の人たちにインタビューをし、そのお話しをブログに書いてきました。皆さんには、彼らのお話し/ストーリーは並外れたもののように聞こえるでしょうが、私たちの活動においては、よく聞く話でもあるのです。

それでは今からシルヴィアについてお話しします。そして、シルヴィアの証言をもって、私の今日の話締めらせていただきたいと思います。

シルヴィアは生まれつき耳が不自由でした。母親はシルヴィアが赤ん坊のときに亡くなり、父親はシルヴィアが5歳の時に亡くなったため、シルヴィアは幼い頃から孤児として育ちました。彼女を引き取った祖母は、アルコール依存症で、毎日のように彼女を虐待し、殴っていました。シルヴィアは毎日、祖母が眠りにつくまで路上に隠れていましたが、祖母が目覚めるとシルヴィアを虐待し続けることがよくありました。

インタビュー当時、シルヴィアが私にこのような話しをしてくれたのですが、興奮して話す彼女のうめき声や叫び声が大きすぎて、通訳の声が聞き取りにくかったのを覚えています。その他にも、シルヴィアの身に起こったことで、私がよく聞き取れなかったことがありましたが、正直、むしろ全て聞けなくてよかったのではないかなと思うぐらい、聞くに耐えないひどい話でした。

ある日、カンパラ地域に親戚がいることを知ったシルヴィアは、祖母のもとを逃げ出し、270キロの距離を移動して親戚のもとへ行きました。親戚は彼女を受け入れてくれて、ベッドと食べ物を提供してくれましたが、それ以上は何も与えてくれませんでした。しかも、その与えた食べ物の代金をシルヴィアに払えというのです。しかし、彼女はまだ子供で、しかも耳が聞こえません。シルヴィアは次のように言いました。「どうやってお金を払えばいいのでしょうか？私のことを心配してくれる人も、愛してくれる人も、この世には誰もいないと思いました。私は完全に孤立していました。」

シルヴィアが9歳になったある日、彼女は他のろう者の少女に会いました。その少女はシルヴィアに『学校に行ったことがあるか』と聞きました。もちろん、シルヴィアは学校に行ったことなどなかったし、学校に行くということは、ろう者の彼女にとって残酷なほどからかわれることを意味していました。しかし、その少女がシルヴィアにDMIのことを話し、DMIがシルヴィアをろう学校へ通わせる手助けをするかもしれないことを教えたのでした。

そして DMI のことを知ったその日から、シルヴィアの人生は変わり始めました。シルヴィアはまた次のように話しました。「私はとても幸せになりました。生まれて初めて受け入れられていると感じ、興奮しました。愛されていると感じたのです！」  
シルヴィアは、DMI のろう者のための教会にも通うようになり、13 歳のときにキリストに人生を捧げ、洗礼を受けたのでした。

現在、シルヴィアは学校を卒業し、DMI が企画した手話カフェでのインターンシップを終えたばかりです。昨年 11 月に彼女を訪ねた時は、そのカフェの店長になるほどに成長していました。

さらに、シルヴィアは現在、カンパラの教会で賛美のリーダーを務めています。今まで何人かの才能ある人たちが賛美をリードしてきましたが、シルヴィアのように喜びと謙虚な高揚感をもって賛美をリードしている人を見たことがありません。今からシルヴィアの賛美のビデオをお見せします。シルヴィアがまず、賛美チームの他のメンバーを励まし、その後、会衆の方を向いて励ましている様子を見てください。

挫折、孤独、虐待、恐怖に満ちた少女だったシルヴィアが、今では目的、友情、平和、喜びに満ちた大人の女性になっているのです。彼女の夢は、ろう者の使徒として働くことだそうです。シルヴィアは、『現在は全てが満ち足りています。私が唯一、探さなくてはならないのは、夫です。』と述べていました。

シルヴィアの物語には、テモテのように、変化をもたらす神の力を受け入れると言う、敬虔さが見て取れます。DMI は、どんな状況でも忠実に、そして大いなる喜びを持って、頭を下げ、暗闇を見ても絶望せず、苦難に耐え、奉仕のすべての務を果たしてきました。そして、その結果は一目瞭然です。素晴らしい結果です。

今朝は皆さんに、招待状を差し上げたいと思います。もしあなたがまだ DMI を支援しておられないなら、ぜひ支援活動に参加してください。私たち DMI は、祈り、財政、奉仕の面で、皆さんの支援を必要としています。

もし、祈りのパートナーになりたい方は、後ろにサインアップの用紙がありますので記入していただければ、毎週祈りの課題を送らせていただきます。祈りは、私たちのミニストリーの重要項目であり、より多くの祈りのパートナーがいればいるほど、ありがたく思います。

もし、私たちを経済的に支援してくださる場合は、チャイルド・スポンサーシップ、またはプロジェクト基金、牧師への寄付金、**通常の資金のための寄付金の支援**をしていただくことができます。スポンサーシップが可能な子どもたちの登録カードは、後ろのテーブルの上にあります。

また、奉仕活動のよって私たちを支援してくださる方は、ボランティアのお手伝い、地域担当代表者、また全国にある DMI 理事会の事務などの役割を担ってくださる方を募集しております。ろう者への奉仕にどのように関わることができるか、今日のお話の後、私に直接相談しにきてください。

パウロの言葉にある、この「終わりの日」において信仰を強め、パウロがテモテへの手紙で述べているような性格の欠点や罪を捨て、救いのために賢くあり、信仰において成熟させる神の力を受け入れるよう、皆さんにお勧めすることで今日の話を終りたいと思います。どんな状況でも慎んで冷静さを保ち、苦難に耐え、務めを果たすことができるように、どんな時でも状況でも備えていてください。

主イエス・キリストがあなたがたと共におられますように。

最後に『主の祈り』で、終わりたいと思います。

天にまします我らの父よ、  
願わくは、み名をあげさせたまえ。  
み国を来たさせたまえ。  
みこころの天に成るごとく  
地にも成させたまえ。  
我らの日用の糧を、きょうも与えたまえ。  
我らに罪をおかす者を我らが赦すごとく、  
我らの罪をも赦したまえ。  
我らを試みに遭わせず、  
悪より救いだしたまえ。  
国と力と栄えとは、  
限りなく汝のものなればなり。

アーメン